

# 新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>

メールアドレス [chuou@ac.city.myoko.niigata.jp](mailto:chuou@ac.city.myoko.niigata.jp)

No. 292

2024 (令和6) 年3月18日

## お仕舞い

いよいよ令和5年度の新井中央小学校の教育活動が終わります。3月21日に終業式、そして翌22日に第33回卒業証書授与式が行われ、35人の6年生が卒業します。

6年生にとっては小学校生活が、1~5年生にとっては今年度の活動が「おしまい」になるわけですが、「あとはどうでもいい」というような、投げやりで、プツリ途切れるものではありません。

ちなみに能や舞踊の世界では稽古の締めとして最後に本番さながらに舞うことを「お仕舞い」と言い、その日の仕上げを意味するそうです。次に心をつなぐ区切り方と言えるでしょう。

そういえば、以前、国体出場経験もある剣道の達人から「残心」という言葉を教えてもらいました。「残心」は心残りや未練といった意味もある言葉ですが、剣道や弓道などの武道の世界では全く違う意味で使うのだそうです。一つの動作を終えた後でも緊張を持続させ心身の備えを怠らない教えとして使われ、例えば一本決まったと思って気を抜くと残心がないため技が認められない場合さえあると聞きました。つまり、「心を途切れさせずに次につなぐ」という心のもち方がいかに大切にされてきたのかが分かります。

また、次に備えるという姿勢は、自分に対してだけでなく、感謝をもって次の人につなぐ・思いやるという心構えや行動にも通じるはずです。使った道具や場所などの後片付けや手入れ、掃除など、日常の様々な場面でも、感謝を込めて、次の人も意識した「仕舞い」をきちんとすることが大切なのではないでしょうか。これもある意味「残心」であり、プツリ終わりで放り投げるようなことでなく、他者への思いやりも込めた余韻・余情を大切に、日本人が大切にしてきた感覚に通じるように感じます。各地域、ご家庭でもそれぞれの子が小学校生活のお仕舞い、各学年のお仕舞い、日々のお仕舞いをきちんとできるよう、これからも見守りをお願いします。

この数年間、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、だからこそ学校行事や活動の本来の目的や意義、工夫したやり方を当校の職員は真剣に模索しながら、「自分も みんなも 明るく うれしく よかったね」の合言葉の具現を目指して、子どもたちとともに進んでまいりました。

本年度をもって新井中央小学校を去る職員もおります。中央小で教えていただいたたくさんの事を、感謝を込めて次につなぐべく、職員もしっかり「仕舞い」をしたいと思っております。

地域・保護者の皆様から賜った、ご協力とご厚情に、心よりの感謝を申し上げるとともに、子どもたちの健やかな成長と輝かしい未来を祈念いたします。これからも、新井中央小を、中央の子どもたちを、どうぞよろしく願いいたします。

(校長 村治 隆夫)

